

学習の要点

◇敬語◇

わたしたちが、話をしたり、文章を書いたりするとき、相手が友達のとくと目上の人のときとは、言い方やことばづかいがちがいます。このような言い方の中で、相手の人をうやまうた言い方をするこばを敬語といいます。

1 敬語の種類

① 丁寧語⇨相手に対して、あらたまつた気持ちで、ことばを丁寧にしたたりやわらげたりするときに使つこば。

例 お茶でも飲みましょう。

例 これが入場券です。

例 どうもありがとうございます。

② 尊敬語⇨相手や、話の中に出てくる人の動作や状態などを高めて、うやまう気持ちを表すこば。

例 先生がおっしゃる。

例 お茶をめしあがる。

例 その本をお読みになる。

③ 謙譲語⇨自分や、自分に近い人のことをへりくだること

確認問題

1 次の(1)~(5)の線部の敬語の種類をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使つてもよい)

(1) 母が、先生にお礼を申し上げたいそうです。

(2) どうぞ、こちらでございませう。

(3) 先生がお話しになる。

(4) 父が駅までお送りするそうです。

(5) もうすぐお客様がいらつしやる。

ア 丁寧語    イ 尊敬語    ウ 謙譲語

2 次の(1)~(3)の□のこばを尊敬語に直したものをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) あなたの言うことはもつともです。

(2) 国王陛下が夕食を食べる時間だ。

(3) 校長先生も来るそうです。

ア いらつしやる    イ おつしやる    ウ めしあがる

で、相手を高め、うやまう気持ちを表すこば。

例 わたしがまいります。

例 お手紙をお出しする。

例 お礼をさしあげる。

※ ②の「お(こ)くなる」(尊敬語)と、③の「お(こ)くする」(謙譲語)は、よく似ていてまちがえやすいので注意しましょう。

例 ○ 先生がお預かりになる。

× 先生がお預かりする。

例 ○ わたしがお手伝いします。

× わたしがお手伝いになる。

2 敬語特有のことば

よく使われる敬語には次の表のようなものがあります。

	丁寧語	尊敬語	謙譲語
する	します	なさる    あそばす	いたす つかまつる
いる	います	いらつしやる おいてになる	おる
行く	行きます	いらつしやる    いかれる	まいる(参る) あがる
来る	来ます	おいてになる    みえる	参上する
言う	言います	おっしゃる    おおせつける	申す 申し上げる
話す	話します	言われる    話される	申し上げる
見る	見ます	ごらんになる(ご覧になる) 見られる	拝見する
食べる	食べます	めしあがる	いただく ちようだいする
会う	会います	お会いになる	お目にかかる
聞く	聞きます	お聞きになる	お聞きする うかがう

3

次の(1)~(8)の□には、「お」と「ご」のどちらがあてはまりますか。それぞれ「お」か「ご」で答えなさい。

(1) □ 昼

(3) □ 友人

(5) □ 意見

(7) □ 休み

(8) □ ゆっくり

4 次の(1)~(4)の( )にふさわしいことばを、それぞれア~ウから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) あなたのお父様は家に( )か。

(2) ピアノ教室の先生から、年賀状を( )。

(3) 母が明日、先生のお宅へ( )。

(4) そのかたのことは「閣下」と( )います。

ア お呼ばれて    イ お呼びして    ウ おつて

1 次の(1)～(4)の組の中から、ほかと種類が異なる敬語を一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) ア きれいなお花ですね。  
イ どうぞごゆっくり。  
ウ お返事をお待ちしています。  
エ おっしゃる通りです。

(2) ア たくさんめしあがってください。  
イ あなたのなされたことはりっぱです。  
ウ 失礼いたします。  
エ お会いになってみてはいかがですか。

(3) ア わたしが行きます。  
イ 妹がこちらに來ます。  
ウ ちよつと拝見します。  
エ 明日は外出しています。

(4) ア 一言申し上げてもよろしいですか。  
イ どうぞなんでもおっしゃってください。  
ウ お客様がおいてになる。  
エ ゆっくりこちらになってください。

4 次の(1)～(5)の組の中で、線部のことばの使い方がまちがっているもの一つずつを選び、記号で答えなさい。

(1) ア 父は元気だとおっしゃっています。  
イ あなたがおっしゃったのはこのことですか。  
ウ 先生がおっしゃる通りだ。  
エ わたしにそうおっしゃいましたよね。

(2) ア わたしが申し上げたいのはそれだけです。  
イ 母が申すには、早いほうがいいとのことでした。  
ウ よろしくお願ひ申し上げます。  
エ 先生ならきつとそう申すはずだ。

(3) ア こちらへいらつしやい。  
イ 先生のところへいらつしやったのは母です。  
ウ 外国へいらつしやったことがありますか。  
エ 遠足には校長先生もいらつしやるそうです。

(4) ア 父にそのことをお話しになったのですか。  
イ そのかたは会社をおやめになったそうです。  
ウ わたしがお会いになった人は親切でした。  
エ あなたがお決めになってください。

(5) ア わたしの著書をさしあげます。  
イ それは先生から母にさしあげたものです。  
ウ 王様にさしあげるごちそう。  
エ これは先生にさしあげたいなあ。

2 次の(1)～(4)の線部のことばを、それぞれの指示にしたがって、意味を変えないように書き直しなさい。

(1) 先生はもう帰りました。(うやまつた言い方に)

(2) あなたは恩人です。どうもありがとう。(ていねいな言い方に)

(3) 先生のお宅で夕食を食べた。(へりくだった言い方に)

(4) 上級生から話を聞く。(へりくだった言い方に)

3 次の(1)～(4)の線部のことばを、文のつながりに合った形の謙讓語に直して書きなさい。

(1) わたしが説明 する ます。

(2) はっきり 言う ますが、それは無理です。

(3) もうすぐ母が 来る ます。

(4) では、お茶を もら うてきますか。

5 次の(1)～(5)の線部の敬語をふつうの言い方にしたものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 校長先生ならよく存じ上げております。

(2) このボールペンを進呈します。

(3) お返事をうかがってまいります。

(4) お目にかかるのは初めてですね。

(5) コーヒーと紅茶がございます。

ア 聞く    イ 知る    ウ やる  
エ 会う    オ ある

単語38の新出漢字

- 152ページ: 券(ケン), 預(ヨ), 覧(ラン), 陛(ヘイ)
154ページ: 宅(タク), 閣(カク), 恩(オン)